

助け合うことに国境はない

# 在日 ミャンマー人

—— わたしたちの自由 ——



監督・撮影・編集・製作 土井敏邦

編集協力: 尾尻弘一 整音: 川久保直貴 宣伝デザイン: 野田雅也 配給: きろくびと  
ドキュメンタリー | 2025 | 日本 | 171分 | DCP

[doi-toshikuni.net/j/myanmar](http://doi-toshikuni.net/j/myanmar)

『異国に生きる -日本の中のビルマ人-』  
から13年  
声を上げたのは、日本で暮らす若者たちだった

文化庁映画賞  
文化記録映画優秀賞

Photo: Thant Myo Htwe (D) / MASAYA NODA (U)



## 2・1軍事クーデターから5年 異国で懸命に生きる彼らの姿は 排外主義が進む世界の希望となり得るか

2021年2月1日、ミャンマー国軍によるクーデターが起き、ミンアンフライン総司令官が全権を掌握、国家指導者の地位に就く。国軍は2020年の総選挙を無効とし、非常事態宣言を布告すると、選挙で勝利した国民民主連盟(NLD)政権の指導者アウンサンスー氏らが拘束された。

このクーデターに対し、国民はミャンマー全土で非暴力の抗議デモで激しく抵抗、多くの公務員たちが抵抗の意志を示すために職場を離れ、市民不服従運動(CDM)を展開したが、国軍は武力で弾圧し、拷問死も含め多数の死傷者を出した。その結果、推定350万以上の人々が国軍の弾圧を逃れ、国内避難民となった。日本でもクーデター直後から当時4万人ほどいた在日ミャンマー人たちの多くが抗議のデモで立ち上がる。各地で働く技能実習生の若者たちも休日を返上し、地方から東京での抗議デモに駆けつけ、現地支援のための募金活動にも奔走する。



『沈黙を破る』、『福島は語る』、『津島』、『ガザからの報告』など、そこに暮らす人々の視点で丹念に映し出してきた作品は数々の受賞を重ねてきた土井敏邦監督。本作は祖国・ミャンマーの民主化運動のために日本に亡命したチョウウチョウソー(チョウ)を14年追った『異国に生きる - 日本の中のビルマ人 -』(2013年公開)の続編的位置づくなる作品。

第一部では、デモに参加した若者たちの祖国のクーデターへの怒りと悲しみ、深い思いを伝え、第二部ではタイ側の国境沿いの町に避難したミャンマー人たち、とりわけ子どもたちが通う学校の支援を続ける在日ミャンマー女性を追う。そして第三部では前作のチョウのその後を追い、さらにクーデターを起こした国軍と日本との関係を追う。

世界で民主主義が後退しつつある中、そのレンズに映る在日ミャンマー人たちの姿は、私たちに自由、民主主義そして祖国とは何かを問いかける。

監督・撮影・編集・製作：土井敏邦 編集協力：尾尻弘一 整音：川久保直貴 宣伝デザイン：野田雅也 配給：さろくびと ドキュメンタリー | 2025 | 日本 | 171分 | DCP

1948	ミャンマー独立 当時はビルマ連邦
1962	国軍のネウイン将軍が クーデターで実権を握る
1988	大規模な民主化運動が発生、アウンサン スー氏も参加。国民民主連盟(NLD) 結党
1989	スー氏自宅軟禁状態に (以降、2010年まで計3回15年にわたり軟禁)
1990	総選挙実施。NLD圧勝も軍政が結果無視
2010	20年ぶりの総選挙実施。NLD不参加で 国軍系政党が圧勝。選挙後、スー氏 が解放される
2011	テインセイン大統領の下で民政移管。 NLDが政党登録
2015	総選挙でNLD圧勝、翌年NLD政権発足、 スー氏は国家顧問兼外相に
2020	総選挙で再びNLD圧勝
2021	国軍が3度目のクーデターでスー氏らを拘束、非常事態宣言。ミンアンフライン総司令官が議長に



# 2026年初春、ロードショー

全国共通特別鑑賞券 ¥1,600 (一般 ¥2,200 シニア ¥1,800 のところ) 販売中!

1/30 金 ~

武蔵野市吉祥寺本町1丁目5-1 吉祥寺バルコ地下2階

UPLINK 吉祥寺

0422 (66) 5042 joji.uplink.co.jp

2/14 土 ~

新宿駅東南口階段下ル 平州街道沿トコモショップ左入ル

New宿 K's cinema

03 (3352) 2471 www.ks-cinema.com

各回入替・全席指定席